教育連携講座/ESD・SDGsセンター　及川 幸彦 教授

教育から持続可能な社会を創造するESD

キーワード　ESD/　SDGs/　防災・減災/　海洋/　気候変動/　マルチステークホルダー

どのような研究をなぜ行っているか

地球環境学博士（京都大学）。専門はESD/SDGｓ。主にESD/SDGsの視点から防災・減災、海洋、気候変動等の教育に取り組む。貧困や経済格差、戦争や紛争、気候変動や西部多様性の喪失など顕在化する地球的かつ地域的な諸課題を踏まえ、「持続可能な社会の創り手の育成」を向けて「ESDの視点からの教育の質の向上」と「持続可能な社会の実現への教育の果たす役割」について研究する。

2002年から気仙沼市を中心に地域や大学、政府、国際機関と連携して学校教育やESDに取り組み、市内全小中学校の「ユネスコスクール」加盟や「国連大学ESD地域拠点（RCE）」の設立に貢献するなど、ホールシティでESDを推進する。2011年に発生した東日本大震災の際には、気仙沼市の学校の管理職として震災直後の危機対応にあたるとともに、その後、教育委員会の管理職として、全国の大学やUNESCO、OECDなどの国際機関と連携しながら、ESDの視点からの被災地の教育再生・復興、そして防災・減災教育の改革に取り組み、それらの教訓や研究成果を国内外に発信する。

2016年から東京大学大学院海洋教育センターでESDの視点からの海洋教育や減災教育等の学際的な教育研究に取り組み、全国の学校に普及するとともに、国際シンポジウムを主宰し、国際的海洋教育プラットホームを構築する。2022年4月に奈良教育大学に赴任し、ESD/SDGs研究の質的向上を図る。

国レベルでは、日本ユネスコ国内委員会など文科省や環境省、外務省のESD/SDGs関連の委員を歴任するとともに、国のESD円卓会議議長、ESD活動支援センター企画運営委員等を務め、政府のESDやSDGs推進施策の策定にも貢献する。また、2014年からはアクサ・ユネスコ協会減災教育プログラムのコーディネーターとして、全国の教職員を対象に革新的な減災教育の研修プログラムを開発・実施する。

国際レベルでは、2014年「国連ESDの10年世界会議」(名古屋)や2015年「国連防災世界会議」(仙台)、2017年「オタワ会議」(カナダ)、2021年「ESDに関するユネスコ世界会議」(ベルリン)等へ招聘され、日本のESDの研究成果を世界に発信する。「日本ユネスコ国内委員会会長賞」表彰(2018)。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

- ◆ 2002年から先進的なESDカリキュラムを開発・実践してきた経験や、文部科学省「ESDの推進の手引」等の監修の実績を生かし、全国の学校や教育委員会にESDの推進について指導・助言ができる。
- ◆ 学校を核に地域や大学、関係機関との連携を構築しホールシティでESDを推進してきた手法を生かし、ESD/SDGｓの校内での推進体制や多様なステークホルダーとの連携の構築について指導助言できる。
- ◆ ESDコンソーシアムのコーディネータや国連大学RCE設立、大牟田市教育委員会、只見町教育委員会等への支援の実績を生かし、ESD/SDGsの地域及び国際的なネットワークづくりに貢献できる。
- ◆ 日本ユネスコ国内委員会委員、ESD円卓会議議長、ESD活動支援センター企画運営委員長等の実績を生かし、国レベルでのESD/SDGsの施策や政策立案に貢献できる。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

日本ユネスコ国内委員会委員（2014～2019）、ESD関係省庁連絡会議「持続可能な開発ための教育（ESD）円卓会議」議長（2015～現在）、日本ユネスコ協会連盟理事（2017～現在）、ESD活動支援センター企画運営委員長（2019～2022）、環境省/環境教育における「ESD推進」のための実施拠点支援事業アドバイザリーボード委員長（2017～2019）、こどもエコクラブアドバイザリーボード委員（2013～現在）、日本ESD学会評議員（2017～2020）、外務省SDGs副教材作成協力者（2019～現在）、東北地方ESD活動支援センター企画運営委員長（2017～2019）　など

奈良教育大学　教育研究支援課 学術研究推進係 0742-27-9135　g-kenkyu@nara-edu.ac.jp